まだ見ぬ次の災厄に向けて

物質・情報卓越教育院　副教育院長
一杉 太郎（物質理工学院・教授）

新型コロナウィルス(COVID-19)感染拡大が世界中で続く中、このメッセージを書いています。

今、様々な局面で意識改革を迫られています。今後、研究の進め方、生活スタイル、社会のあり様は大きく変わっていくでしょう。

そして今、学生の皆さんはその現場に立ち会っています。

皆さんこそが、次の時代を作っていくのです。

この目の前で起きている災厄の克服に向け、物質・情報卓越教育院が関わる科学や技術は非常に大きな役割を果たすでしょう。例えば、高度なコンピューティング技術、センシング技術、ロボット技術、ライフ・バイオ技術を生み出すことが期待されています。さらに、高性能医療機器や分析装置、精度と確度が高いシミュレーション技術、迅速な製薬やワクチン合成、ウィルス透過を高度に遮断するマスクや安心・安全な医療用具、あるいは、速やかに病院を構築する技術、など枚挙に暇がありません。

この大きな流れの中で、確実なことがあります。それは、世の中で「デジタル化」が進み、新しいハードウェア、ソフトウェア、サービス、そして社会システムが求められることです。そうです、ますます、複素人材の重要性が増していくでしょう。

皆さんには、社会との接点を減らして殻に閉じこもるのではなく、開かれた心で社会と太くつながって欲しいと思います。人と人の物理的な接触が制限される中、デジタル技術(情報技術)を活用して従来以上の前進を実現しなければなりません。

自分自身が今、そして今後、何をしなければならないのかを考え、行動して欲しいと強く願います。そのためには、世界の中での自分、そして、時間の流れの中での自分の立ち位置を自ら知ることが必要であり、リベラルアーツが重要になります。

産業界の皆様には、大学における人材の育成に、より強い関心をもっていただきたいと願います。次の時代を作る大学院生は社会の宝ととらえ、人的、経済的な支援を引き続きお願いいたします。社会全体から見れば、大学と企業は一蓮托生と言えます。良い大学教育が行われて人材育成が進めば、その人材が企業で活躍し、結果的に企業は社会により貢献することができるでしょう。引き続きのご支援、何とぞよろしくお願い申し上げます。

政府にも、学部生と大学院生を社会の宝とみる文化の醸成、産学教育に関わる税制面での法整備等、大学と産業界のリンクを強化する政策をお願いしたいと考えています。

この災厄を機に、より大きな戦略を描き、あらゆる分野で活躍する人材を育成していく。それが、次の、「まだ見ぬ災厄」に向けた最善の取り組みでしょう。